**フィギュア羽生、左足甲は全治２カ月　当面は治療に専念**

　日本スケート連盟は26日、フィギュアスケートのソチ冬季五輪王者で左足甲を痛めていた羽生結弦（ＡＮＡ）が「リスフラン関節靱帯損傷」のため全治約２カ月の安静、加療を要する見込みとの診断結果を発表した。２位だった２日終了の世界選手権後は練習拠点のトロント（カナダ）で療養しており、当面は帰国せずに治療に専念する。所属するＡＮＡは５月中旬にあらためて経過を報告する方針。

　羽生はシーズン序盤から左足に痛みを抱え、年明けに状態が悪化。左足で氷を突いて踏み切るトーループは負担が大きいため、２大会ぶりの優勝を目指した世界選手権では一部の４回転ジャンプをサルコーに変えざるを得なかった。〔共同〕